



杉並区立
浜田山小学校

学校だより 第546号
令和2年度 1月号

はまだやま

校長 伊勢 明子
副校長 森賀 慎一

「新年を迎えて」

校長 伊勢 明子

明けましておめでとうございます。

新しい年の始まりに本年が皆様にとって幸多い年になりますようにと謹んでご挨拶申し上げます。

ちょうど1年前のお正月、新型コロナウイルス感染症に世界が席卷される状況を誰が予測したでしょうか。私自身、昨年のお正月は例年のように箱根の駅伝に興じる一人であり、また、オリンピック・パラリンピックイヤーに思いを馳せる一人でもありました。

令和2年4月から全面実施となった学習指導要領の趣旨では「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会の創り手となる力、つまり生きる力を身に付けること」と示されています。

学習指導要領がスタートした4月には、既に「予測困難な社会の変化」が起きてしまっていたことに何らかの因縁すら禁じ得ませんでした。学校では、昨年度末から現在まで、保護者・地域の皆様のご協力をもとに感染状況に一喜一憂しながら、その時の

できる限りの感染防止対策を実施し、学習の保障と教育活動の進行に必死に努めてまいりました。しかし、その姿は、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせている」ものではありませんでした。

昨年12月に第6学年児童の卒業文集を読む機会を得ました。その内面の成長ぶりに驚きました。将来への確固たる夢や努力、家族・友達・教師への感謝、思い出・自分の成長・付けた力などについて、力強くそして真摯に綴られており、胸を打ちました。第6学年児童は、コロナ禍の惨憺たる状況の中でも、感染防止対策を徹底させ、フラッシュモブ、移動教室代替学習、体育学習発表会、肝試し、クリスマス会と楽しい企画を校長室に直談判に来たり、積極的に関わって楽しんだり自分たちの力で仲間とかげがえのない思い出を作りました。まさに「主体的に関わり、感性を豊かに働かせている」姿でした。子どもの姿に学ぶとともに新たなエネルギーを得た思いがしました。

子どもたちの「生きる力」が必ず明るく希望にあふれた未来を創ります。そのスタートを切る令和3年になることを確信しています。

1月の生活目標 【時間を大切にしよう】

3学期がスタートしました。コロナ禍の中での年末年始は、いかがお過ごしだったでしょうか。子どもたちは、生活リズムの乱れなく過ごすことはできたでしょうか。3学期は学年のまとめの学期です。これまでの学校生活で学んできたことを確実に実践できるようにしてほしいと考えています。

1月の生活目標は「時間を大切にしよう」です。登下校の時刻を守ったり、授業と休み時間のけじめをつけたり、時刻を意識して一日を過ごせるように声を掛けていきます。引き続き感染予防のため、手洗い、うがいの徹底をしていきます。ご家庭においても、子どもたちがすすんで時間を大切に、手洗いやうがいを率先できるようにお声掛けをよろしくお願いします。



▲浜田山小学校屋上から見た、正月の富士山

遅刻や早退時のお願い

遅刻で子どもを送り届ける際、安全確認のため必ず教室の担任まで、または職員室の教員への引き渡しをお願いします。早退の際も同様に、担任または養護教諭から確実に引き取るようにお願いします。校門での待ち合わせはできません。

ご協力をお願いいたします。